



夢中で駆け抜けた20年 ディレクターとしての挑戦は これからも続く

松岡 一史

2001年 大阪芸術大学附属大阪美術専門学校
デザイン学科卒(映像専攻)(D00144)
卒業後、NHKドラマを手がける映像制作会社
テイクファイブ入社。
2002年より数々のドラマの演出・制作に携わる。
2021年3月独立。現在フリーランスとして活躍中

美専の映像専攻を卒業後、20年近くNHK朝の連続テレビ小説などの制作・演出に携わってきた松岡一史さん。2021年11月スタートの「カムカムエヴリバディ」の撮影期間中のお忙しいなか、職場近くのカフェでお話をうかがいました。NHK外部の制作会社スタッフとしては史上初めて朝ドラのディレクターとなるなど、現場の最前線を走り続けてきた松岡さんのお話は興味の尽きないものでした。



連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」
NHK 総合 あさ8時～ほか 放送中

最初の会社 テイクファイブに入社したきっかけは？

卒業して半年ほど経った頃、美専の南珠里先生の繋がりで京都の古いお風呂屋さんでやるダンスイベントを手伝ったことがありました。その頃テレビ番組制作会社の採用試験を受けたりしてたこともあって、南さんにそういう話をしたら「テイクファイブっていう会社が人を募集してるから受けてみたら？」と言われたのが最初です。2週間ほどの試用期間の後、採用されました。既に受けていた制作会社は内定ももらっていただけでお断りして。

ドラマ制作のお仕事を選ばれた理由は？

当時の自分としては、情報番組の制作よりドラマ制作を経験する方がその後の自分のキャリアに繋がるような気がしていました。それにドラマの方が何やってるかわかりやすい感じがあって。監督がいて・・・みたいな。それに一通りの制作過程は知っていたことでカメラマンが困ってたらちょっと手助けできるし。というかそんなことしかわからないのでドラマの仕事はやりながら覚えていったという感じですね。

入社してすぐNHK朝ドラのお仕事だったんですか？

そうです。2002年のドラマ作品からですが当時は雑務ばかりでした(笑)入社してすぐなら見学してから実務という流れが普通だと思うんですけど、そんなこと全くなく2週間後には現場に入っていました。試用期間が済んだばかりの右も左もわからないド素人。お弁当も発注するし、ロケ地も探さないといけない。時代物では現代人が見切れるといけないから人や車を止めたり。NHK

の場合、いわゆる助監督業みたいなものと制作部の仕事の垣根がないので撮影期間中は1週間準備して1週間撮影の繰り返しでした。ロケの合間に交代で準備する感じでした。今は全然違いますけど、その当時はあまり休んでなかったですね。

テイクファイブはもともと大阪で制作をしていた方が東京にでて立ち上げた会社なので東京と大阪の両方にスタッフを置いてました。勉強のために東京本社で仕事する機会がありました。そこではフリーランスの助監督さんと仕事をして、普段のスタイルと全然違うことに戸惑いました。自分が指示を出して皆に動いてもらわないといけないのに全くうまく立ち回れず、結局自分で全部やることになってしまっ。でもその時寝る間を惜しんでやった仕事が役者さんから「役にたったよ」と言ってもらえたことが何より嬉しかったです。その言葉がなかったら続けられていなかったと思います。この東京での経験で助監督業務に集中できることの面白みを感じました。その後、演出だけをやりたいという僕の意思を尊重してくれた先輩がいて、幸い20代半ばから現場を仕切れる立場に置いていただきました。

ディレクターとしてはいつから？

30歳の時、当時プロデューサーに昇格された先輩から「ディレクターになりたいなら前例をつくりなさい」と言っていたので30秒とか1分とかの短いスポット的な番宣番組のディレクションを任せてもらい「てっぱん・総集編」(2011)ではリサーチャーとして構成を考えました。正式にディレクターとしてデビューしたのは「わるてんか」のスピノフ(2018)です。その翌年の「まんぶく」(2018)の2週分ですね。それまで朝ドラや大河ドラマに



連続テレビ小説「わるてんか」
写真提供 NHK

関しては、NHK本体でない外部の人が撮るのはあり得なかったことですが、一気に緩和された時期でした。

ディレクターとしてNHK本体に移ることは考えなかった？

あまり考えませんでした。もちろん外部の制作会社からNHKへ移っていく人もいます。でもその当時テイクファイブも自社で番組制作しようという気持ちがあったので自分はそこで仕事できた方がいいだろうなという気持ちがありました。僕らの世代はバブル世代からだんだん逆ピラミッドになってきた時のちょうど狭間の世代というか、仕事を任せるにも下を見たら僕しかいないみたいな状態になっていました。良いタイミングに業界に入ったのかもしれない。今は働き方改革で人を増やす方向に向かっています。昔は外部スタッフ5～6人でやってた仕事も今は30人ぐらいでやっている。「雇用の創出と機会の喪失」って言うてるんですけど、僕らの時って1週間交代で全部、ロケ地もやればスタジオもやってきたのが分業制になってるんです。仕事を覚えろといってもその機会がない今の状況を見ると、当時無理にでも全部を経験してもらってたのは得だったなと思います。

ドラマ撮影においてコロナの影響は？

スタッフだったりロケ先の関係でいろんなことは起きます。でも今のところは大きな撮影の中断はないですね。緊急事態宣言中はリハーサルを取りやめたり、テスト撮影はマスクやフェイスシールド着用で行います。ただ、大阪の朝ドラというのは東京から出演者がわざわざ来て一定期間泊まって撮影しています。現場には合宿っぽい雰囲気があってその空気感は映像にも出ると思うんですが、それができなくなってるのは寂しいですね。出演者の緊張をどうやってほぐしながらやってくかということが難しいです。



連続テレビ小説「まんぶく」
写真提供 NHK



左から 松岡一史さん、企画広報委員 東陰地正喜

これからのテレビとご自身の展望は？

若い世代がテレビを見なくなっているといっても決してテレビとの接触率は下がってないんです。テレビの使い方が変わってきているということです。うちの息子でもテレビでYouTube見てますし。結局のところコンテンツをどうやって作っていくのかと、見る側の文化をどう育てていくかだと思います。日本で朝ドラと大河ドラマほど大きな予算をかけたテレビドラマはないんです。

ミニマムな予算でできるものもあると思うんですけど、プロとしてはより大きい予算の仕事をした方がいいんじゃないかって思って最初から仕事してきました。フリーのディレクターとして独り立ちするために企画力を磨いていくが必要になります。東京進出も選択肢にはないですが、ディレクションをやる今の環境を大事したい、軸足は育ててもらった関西でという気持ちもあります。例えば釜山を越える映像産業都市とか、東京ではなく京都や大阪を映画づくりの拠点として仕事していくことについて仲間うちで話したりします。京都など撮影所も残っているんだし、もう全部こっちでやりゃいいのって。

文責/企画広報委員 東陰地正喜



連続テレビ小説「心の傷を癒すということ」
写真提供 NHK

松岡さんが担当された番組

2003年 ドラマ愛の詩『パパトルドミー』/制作補
2003年 連続テレビ小説『てるてる家族』/制作補・SD
2004年 夜の連続ドラマ『結婚のカタチ』/サード助監督
2004年 連続テレビ小説『わかば』/SD(途中合流)
2004年 夜の連続ドラマ『アイ・ム・ホーム 遥かなる家路』/SD
2005年 連続テレビ小説『風のハルカ』/制作補・SD(途中合流)
2006年 土曜ドラマ『新・人間交差点』/制作補
2007年 土曜ドラマ『スロースタート』/SD
2007年 木曜時代劇『新・はんなり菊太郎〜京・公事宿事件張〜』/FD
2007年 土曜ドラマ『ジャッジ〜島の裁判官奮闘記〜』/SD〜FD
2007年 木曜時代劇『柳生十兵衛七番勝負 最後の闘い』/SD(途中合流)
2008年 木曜時代劇『鞍馬天狗』/FD
2008年 土曜ドラマ『ジャッジⅡ〜島の裁判官奮闘記〜』/FD
2009年 土曜時代劇『浪速の華〜緒方洪庵事件帳〜』/FD DVD 特典映像
2009年 連続テレビ小説『ウェルかめ』/FD総集編スペシャル/FD
2010年 連続テレビ小説『てっちゃん』/FD
プレマップ23分『あかり×みおり〜朝ドラヒロイン2つの顔〜』
※ディレクター総集編 前編 後編 ※リサーチャー
総集編25秒プレマップ ※ディレクター
DVD特典映像『Talk 4 Men』※ディレクター
DVD特典映像/HP用てっちゃんダンス『ひとり編』『グループ編』

2011年 かんさい特集『やさしい花』/FD
2分プレマップ
25秒プレマップ
5秒クラッチ

2011年 かんさい特集『てっちゃん番外編 イブ・ラブ・イブ』/FD
2012年 ドラマ10『タイトロープの女』/FD
2012年 BSドラマ『高橋留美子劇場・短編マンガ傑作選(仮)』/FD
2012年 BS時代劇『猿飛三世』/FD
2012年 BSプレミアム『ラストディナー』/FD・制作補
2013年 土曜ドラマ『夫婦善哉』/チーフ助監督
2013年 ただいま母さん PR 2分 25秒 ※ディレクター
2013年 連続テレビ小説『ごちそうさん』/FD
2014年 連続テレビ小説『マッサン』/FD
2015年 放送90周年ドラマ『経世済民の男 小林一三』/制作補
2015年 連続テレビ小説『あさが来た』/FD
2016年 連続テレビ小説『べっぴんさん』/FD
スピンオフ『忘れられない忘れ物 ヨーソローの一日』第一話・第四話/演出
2017年 連続テレビ小説『わろてんか』/FD
スピンオフ『ラブ&マンザイ』第5話『勘当のフィナーレ』/演出
2018年 連続テレビ小説『まんぷく』/FD 第16週・第24週/演出
2019年 よるドラ『だから私は推しました』/チーフ助監督 全8話
土曜ドラマ『心の傷を癒すということ』第2話『僕たちの仕事』/演出
2021年 連続テレビ小説『カムカムエヴリバディ』スケジューラー/
第10週・12週演出